うえだ 環境市民会議 News ニュース

第 34 号

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行：うえだ環境市民会議
〒386-8601 上田市大手一丁目11-16
上田市生活環境課内
電 話：0268-23-5120
FAX：0268-22-4127
E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

環境講演会開催のお知らせ

『自然エネルギーの動向と地域での取り組み』

　地球温暖化防止の観点から太陽光や小規模水力発電などの自然エネルギーに対する関心が高まってきています。
　地域で新エネルギーを普及していくために、私たちにどのような取り組みができるのか一緒に考えたいと思います。ぜひご参加ください。

日　時：　平成 23 年 **2** 月 **25** 日（金）午後 1 時 30 分から

場　所：　上田駅前ビル　パレオ 2 階会議室　入場無料

講　師：　NPO 法人環境エネルギー政策研究所所長　飯田哲也氏

【講師プロフィール】

ルンド大学（スウェーデン）客員研究員。長野県経済戦略会議委員、同環境審議会委員。おひさまエネルギーファンド（株）（飯田市）共同代表取締役。中央環境審議会、東京都環境審議会などを歴任。自然エネルギー分野で先駆な活動を続けており、国内外で活躍されている。

◆　お問い合わせ　◆

うえだ環境市民会議事務局 / 上田市役所生活環境課　電話 23-5120

平成 22 年 10 月 22 日（金）にうえだ環境市民会議が主催して飯田市にあるNPO いいだ自然エネルギーネット山法師「風の学舎（まなびや）」と「堆肥センター」を視察してきました。その感想をお寄せ頂きましたのでご紹介します。

▲飯田の視察研修に参加されたみなさん
（風の学舎のデッキにて）

自然エネルギーを見学して

我妻やす子

飯田の視察から帰って来てすぐに寒気が入り冬支度に追われました。電気炬燵と灯油のストーブが必要な季節になってきました。「風の学舎」の薪ストーブ、大きな囲炉裏の炭火、木の床がきっと暖かだろうなと思いました。また、かまどでご飯の炊ける最後の年代だろうなと、懐かしさ一杯の家の中でした。

風力や太陽光を利用して発電したエネルギーは、その場で利用するには大変よいとの事、発電所から家に届くまでの電気ロスが非常に多いという話には驚きました。

上田は雨の少ない所ですので、ソーラーパネルが家々の屋根に見られるようになるといいなと思います。補助金制度や設置者が多くなり、設備費が安価になる事を願っています。太陽の光が暖かくさしていると、ああ、もったいないなあと思うこの頃です。楽しい視察旅行でした。

▲風の学舎

環境視察研修に参加して

林秀子

これまで「うえだ環境市民会議」の存在さえ知らなかった私が、本視察研修に参加した動機は、南信への観光旅行程度の軽い気持ちでした。今回の研修では、新鮮な驚きと若干の疑問がわきました。

化石燃料ゼロハウス「風の学舎」では、6つのコンセプトに基づく、モデルハウスの建設と運営は興味あるものでした。半年前に終の棲家を建てた私ですが、今後生活していく上で参考になるかも知れません。ただ、工業生産の家すべてが、景観や環境の観点からは好ましくないという結論には疑問を感じました。当該 NPO 法人の会員の方

たちは、どんな家に住んでいるのかしら･･･。

飯田市堆肥センターでは、本センターの運営に苦労されてきた担当者の説明は、説得力のあるものでした。技術的なブレークスルーがあったというよりは、マネージメントの発想の豊かさの成果であると感じました。飯田市民に納得して貰い軌道に乗るまでには、６年間の期間が必要だったとのこと。やはり時間はかかりますので地道な活動が必要なのでしょう。地域にあったやり方を模索する必要があると感じました。

▲堆肥センター

刺激的な研修でした

蚕都くらぶ・ま～ゆ　中島邦夫

うえだ環境市民会議主催の環境視察研修の案内を広報で知り、わくわくしながら申し込みました。日ごろ「自給的生活」を目指して仲間と、まず「食」から農業に取り組んでいて、次はエネルギーの自給をと考えていたからです。10 月 22 日、市役所前に集合しバスに乗り込んだところ、満員の参加者です。この問題に関心の高い方々の多さに改めて感心しました。と同時にこの様な方々とお仲間になれれば一層心強いだろうなと楽しみになりました。

風の学舎は小高い丘の上、天竜川と飯田市街を見下ろし、正面に飯田のシンボル風越山を見渡せる素晴らしい場所にありました。上田なら太郎山の山麓か、そうだ須川の小牧山はぴったりだと早くも「上田では」と、その気になっているごんべえ（中島さんのニックネーム）でした。

建物は大鳥が翼を広げてたたずんでいるような、以前訪ねた明治時代の学校のテラスのある外観を思いださせる様な、古さと新しさが混交したちょっと不思議で懐かしい雰囲気のものでした。柱がむき出しになった作りのせいかも知れません。4 年の歳月を掛け、会員が土日を利用して作り上げたのだそうです。建設中の写真からは楽しそうに力強くカケヤを振るい、土壁をこねて塗っている音や息使いまでも聞こえてきそうな生き生きとした様子が感じ取れました。

太陽光による発電。薪ストーブ、囲炉裏による暖房。かまど、囲炉裏、薪ストーブの炊事。特にかまどでの釜炊きご飯は 20 分で炊き上がるそうで、これは使えそうだ。薪ウッドボイラー、太陽熱温水器の給湯もいただきです。

雨水利用システムのホーロータンクは酒蔵の再利用に違いない。丸子の蔵にもあったな。あれを使おう・・・と何時か仲間と一緒に住むコレクティブハウス（共同住宅）を夢見ているごんべえの頭の中は、すっかり設計モードになっていたのです。

意外だったのはシンボル的に回っている

同軸無指向性の小型風力発電機の非実用性でした。発電量がわずかで、単なる風車でしかなさそうです（そういえば全国で稼動中の風力発電機は風量の少なさと落雷などの事故で半分以上が採算割れしているそうです。確かに大きな風車はグロテスクですよね）今後の参考になりました。

研修見学用の施設とすればよく出来ていましたが、実際にこれを参考にし生活に取り込んで利用している場面も見たくなりました。それは又の機会に・・・。さらに実質的な運営責任者の前理事長が市議会の議長になっていると聞き、やはり政治的な推進力と行政の援助は不可欠なんだろうなと深く感じ入ったところです。

お昼は座敷風広間で、地元梅野沢生産組合婦人部の皆さんの手作り、こちらの名物五平餅や煮物など心のこもった「ひさかた弁当」を美味しく頂き学舎を後にしました。いいだ自然エネルギーネット山法師のみなさんお世話になりました。

▲堆肥センター職員の説明を熱心に聞いています。

午後は飯田市堆肥センターへ伺いました。センターはなだらかな山間の畑の中にあり、想像していたよりかなり大きな施設でした。飯田市では『環境文化都市－人も自然も美しく輝くまち飯田－』創りを目指し、これを具現化するために平成 16 年にこのセンターを建設したのだそうです。ここでは試行錯誤の結果、堆肥の成分バランスを考えて、畜産農家から出る牛糞（10 ｔ/日）、中心市街地約 3000 世帯の生ごみ（6 ｔ/日）、きのこ農家から出るおがくず（6 ｔ/日）を堆肥化しているのだそうです。

この施設建設の直接的な契機は、ごみ焼却場の建替えに伴う焼却ごみの減量化方針とのこと。わが上田市でも大いに学ぶべきだと思いました。「ごみは出したい、焼却場はどこか遠くへ」のご都合エゴがまかり通っているように思います。

この様にして出来た優良堆肥を農家が土作りに利用し、その農産物を消費する「農」と「食」の循環が出来れば素晴らしいなと思いました。何よりも感動したのは説明をしてくれた若い職員のエネルギッシュな言動でした。第三セクターでの運営で出資者の市、JA、畜産農家が積極的にかかわり、「昨年は 70 万円の黒字を計上し、民営に移行してもやれる状況だ」と自信に満ちたその報告に、関係者の努力とご苦労をひしひしと感じました。

この度の見学を企画実行下さった、うえだ環境市民会議の皆様、上田市職員の関係者の皆様にお世話になり、ありがとうございました。さあ、帰ってからの宿題が出来たぞ。